



根こぶ病

白絹病・粉状そうか病・
すそ枯病・ビッグベイン病
などの防除に

根こぶ病

®は登録商標



石原

フロンサイド® 粉剤



特長

- ☆抗菌スペクトラムの広い土壌殺菌剤です。
- ☆根こぶ病に優れた効果があります。
- ☆根こぶ病菌の休眠胞子に殺菌的に作用します。

- ☆根こぶ病防除で使用した場合、苗立枯病（リゾクトニア菌）、菌核病にも副次的に効果が期待できます。
- ☆残効性に優れ、高い防除効果が得られます。
- ☆石灰類との併用は、根こぶ病の防除効果を補強します。

適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	10アール当り 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルアジナムを含む 農薬の総使用回数
ばれいしょ	そうか病 粉状そうか病	30~40kg	植付前	1回	全面土壌混和	6回以内 ^{※1}
かんしょ	基腐病	40kg			1回	
キャベツ	根こぶ病	15~20kg	は種又は 定植前	2回以内 (苗床では1回以内、 本圃では1回以内)	作条土壌混和	3回以内 (苗床では1回以内、 本圃での土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
	苗立枯病 (リゾクトニア菌) 菌核病	30~40kg			全面土壌混和	
40kg		作条土壌混和				
カリフラワー ブロッコリー なばな	15~20kg				全面土壌混和	
メキャベツ かぶ	根こぶ病	30~40kg	全面土壌混和	1回		
非結球あぶらな科 葉菜類 (ケール、こまつな、みずな、のざわな、 なばな、みずかけなを除く)	根こぶ病	30kg	は種前	1回	全面土壌混和	1回
こまつな	根こぶ病 立枯病(リゾクトニア菌)					
みずな	根こぶ病					
のざわな	根こぶ病					
はくさい	根こぶ病 黄化病	30~40kg	は種又は 定植前	1回	作条土壌混和	2回以内 (土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
	レタス 非結球レタス	すそ枯病 ビッグベイン病			20kg	
みずかけな		根こぶ病			15~20kg	
ねぎ	白絹病 小菌核腐敗病	30~40kg			土寄せ時 但し、収穫21日前まで	
たまねぎ	黒腐菌核病	40kg	定植前	1回	全面土壌混和	7回以内 ^{※2}
にら	白絹病	20kg	収穫30日前まで		株元散布	1回
てんさい	叢根病	育苗培土1kg 当り5~10g	は種前	1回	土壌混和	5回以内 ^{※3}
らっかせい	白絹病	20kg	収穫45日前まで		株元散布	1回
だいこん	亀裂褐変症 (リゾクトニア菌)	30~40kg	は種前		全面土壌混和	
	葉腐病		植付前			
チューリップ	条斑病 微斑モザイク病	40kg	定植前	全面土壌混和	3回以内	
ゆり	茎腐症 (リゾプス菌による)		定植前			

《使用上のポイント》

1. 砕土および土壌混和は丁寧に行ってください。
降雨直後などの湿潤な土壌では、混和が不十分となりますので使用をさけてください。
2. 処理薬量を守ってください。
基準量を越える薬量の処理や、植穴処理は薬害(初期生育抑制)が生じますので絶対にさけてください。
3. 混和深度は10~15cmが適当です。
4. 定植、は種は薬剤処理後できるだけ早く行ってください。
薬剤処理後7日以内をめどに、定植または、は種を行ってください。
5. 耕種的防除との組み合わせ等により、より確実な効果が得られます。
6. 株元散布は、土寄せ直前に行ってください。
7. 他作物への飛散には十分注意してください。

※1: 種も浸漬は1回以内、植付前の土壌混和および植付時の種溝散布は合計1回以内、植付後の散布は4回以内
※2: 全面土壌混和は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、散布は5回以内
※3: は種前の土壌混和および苗床灌水は合計1回以内、株元散布および散布は合計4回以内

キャベツ、はくさい、ブロッコリー等の根こぶ病の発生が激しい圃場では「ランマンフロアブル」との体系処理が有効です。

セル成型育苗または、ペーパーポット育苗する地域では、ランマンフロアブルの500倍液を定植前日~当日に灌注処理し、本圃にフロンサイド粉剤を全面散布・土壌混和すると、より安定した効果が得られます。

使用上の注意事項

- 苗床で使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないように注意してください。
- はくさいの黄化病、ばれいしょのそうか病、粉状そうか病、キャベツの苗立枯病(リゾクトニア菌)、菌核病、レタスのビッグベイン病に対する本剤の全面土壌混和および、ねぎの小菌核腐敗病に対する土寄せ時株元散布は、多発生条件では効果が劣る場合があるので注意してください。
- みずかけなに使用する場合、水掛け開始は薬剤処理後2ヶ月以降を厳守してください。
- レタスの茎葉に本剤が多量にかかると薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合は注意して散布してください。
- てんさいに使用する場合、誤って多量に処理すると初期生育が抑制されるおそれがあるので適用薬量の範囲を厳守してください。
- 適用作物群に属する作物または、その新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。また、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は、他のものとは分けて洗濯してください。
- 本剤は水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
- 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本印刷物は、2022年3月時点での知見に基づいて作成しています。

